

東京芸術祭ファーム2022 ディレクターズフォーラム 参加者募集

- ・ディスカッションコース：応募締切 2022年9月10日(土)17:00（日本標準時）
- ・レクチャーコース：応募締切 2022年10月25日(火)17:00（日本標準時）

ディレクターに必要な知識・能力・資質とは何か？ 来るべきディレクター像を考える連続フォーラム

舞台芸術の未来を考えたとき、劇場やフェスティバルのディレクションを担える人材の育成は喫緊の課題です。しかし、そもそもこれらのディレクションのために必要な知識や能力、そして資質とはいかなるものなのでしょう。ディレクターであろうとするために、人は何を学び、どのような経験を重ねていけばよいのか。その答えは、決して自明なものではありません。

「ディレクターズフォーラム」は、これからのディレクターに必要な知識、能力、資質とは何かを根本から考えていくためのプログラムです。国内外のさまざまなフェスティバルでディレクターとして活躍する4組のゲストにレクチャーを行っていただき、それを踏まえて参加者全員で議論をします。未来のディレクターに求められるものとは何か——将来ディレクターを目指す方をはじめ、この問いに共に取り組んでくださるみなさまのご応募をお待ちしています。

ファシリテーター：多田淳之介(東京芸術祭ファームディレクター)、長島確(東京芸術祭ファーム共同ディレクター)

▶こんな方にオススメのプログラムです

- ・ 将来、劇場やフェスティバルのディレクターになりたいと考えている方
- ・ ディレクターの仕事とはいかなるものかについて、深く学び、考えたい方
- ・ 国内外で活躍するディレクターたちの言葉に直に接してみたい方

イントロダクション（オンライン説明会）開催！

東京芸術祭ディレクター 宮城聡 登壇！ どなたでも視聴可能です（事前申込不要）。

- ・ 配信日程：2022年8月24日(水) 19:00～ ※後日アーカイブ配信あり(8月26日(金)頃～予定)
- ・ 登壇者：宮城聡(東京芸術祭ディレクター)
多田淳之介(東京芸術祭ファームディレクター)
長島確(東京芸術祭ファーム共同ディレクター)
- ・ 東京芸術祭YouTubeチャンネルにてライブ配信

※詳細は東京芸術祭 2022 特設サイト内「ディレクターズフォーラム」プログラムページ
(<https://tokyo-festival.jp/2022/program/director>)にてご確認ください

| 東京芸術祭 公式サイト <https://tokyo-festival.jp>

主催：東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、公益財団法人東京都歴史文化財団（東京芸術劇場・アーツカウンシル東京）、東京都〕

助成：令和4年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業

協賛：アサヒグループジャパン株式会社



実施概要

多田淳之介（東京芸術祭ファームディレクター）および長島確（東京芸術祭ファーム共同ディレクター）によるファシリテーションのもと、国内外のさまざまなフェスティバルでディレクターとして活躍する4組のゲストによるレクチャーを受講し、これからのディレクターのあり方について考えていきます。

■ コース

以下の2つのコースを実施します。

①ディスカッションコース	都内の会場にてゲストによるレクチャーを受講、ディスカッションに参加（参加者 <u>選考あり</u> ）
②レクチャーコース	オンラインにてゲストによるレクチャーをアーカイブ視聴（参加者 <u>選考なし</u> ）

■ 実施言語

日本語（ゲストが英語を用いる場合には、日⇄英通訳あり）

■ ゲスト

● 第1回 小川希（Art Center Ongoing ディレクター）



2002年から2006年に亘り、東京や横浜の各所を舞台に若手アーティストを対象とした大規模な公募展覧会『Ongoing』を、年一回のペースで企画、開催。その独自の公募・互選システムにより形成した数百名にのぼる若手アーティストネットワークを基盤に、既存の価値にとらわれない文化の新しい試みを恒常的に実践し発信する場を目指して、2008年1月に東京・吉祥寺に芸術複合施設Art Center Ongoingを設立。現在、同施設の代表を務める。2009-2020年、JR中央線高円寺駅から国分寺駅周辺を舞台に展開する地域密着型アートプロジェクトTERATOTERAのチーフディレクター。2016年、国際交流基金のフェロシップを獲得し東南アジア9カ国83箇所のアートのスペースのリサーチを行う。2021年、文化庁新進芸術家海外研修制度によりオーストラリアに1年間滞在。2020-2022年、レター/アート/プロジェクト「とどく」キュレーター。

● 第2回 マーティン・デネワル（フェスティバル・トランスアメリーク共同芸術監督）



Photo: Hamza Abouelouaffaa

ライブツィヒにてドラマトゥルギー、ロンドンにてアートマネジメントを学んだ後、ルクセンブルクやドイツ、イギリス、ハンガリー、スイス、オーストリアの劇場や演劇祭で働く。その後、フランクフルト・ムーソントゥルム劇場で数年間、ドラマトゥルグとしてニールス・エヴェルベックと協働。2015年から2020年にかけては、ハノーファーとブラウンシュヴァイクで交互に開催される11日間の舞台芸術祭テアターフォルメンの芸術監督を務めた。2021年6月半ばからは、ジェシー・ミルとともにフェスティバル・トランスアメリークの共同芸術監督を務めている。

● 第3回 リバー・リン（アーティスト、ADAMキュレーター）

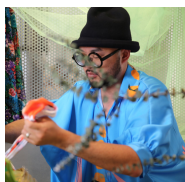


Photo: Chloé Magdelaine - Lafayette Anticipations

パフォーマンス・アーティスト。視覚芸術とダンス、クィアカルチャーの文脈を横断しながら制作、リサーチ、キュレーションを行う。文化的な共同体や場所、制度批評の諸条件に協同的かつ集団的に働きかけ、振付や持続的インスタレーション、「遭遇」や「状況」を上演することによって、異性愛規範的なナラティブや、美術史や現代社会の諸配置を問いただしている。作品は多くの場所で発表されており、それらの中にはボンビドゥーセンターやパレ・ド・トーキョー、ラファイエット・アンティシペーション、国立ダンスセンター（以上、パリ）、KANAL ボンビドゥーセンター（ブリュッセル）、ライブ・アート・デベロップメント・エージェンシー（ロンドン）などが含まれる。2017年からは台北パフォーマンス・センターとともにADAM (Asia Discovers Asia Meeting for Contemporary Performance) をディレクションし、アジア太平洋地域内外のアーティストたちの交流を促進している。

● 第4回 川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・ナップ（KYOTO EXPERIMENT共同ディレクター）



Photo: Takuya Matsumi

川崎陽子

株式会社 CAN、京都芸術センター アートコーディネーターを経て2014-2015年、文化庁新進芸術家海外研修制度によりHAU Hebbel am Ufer劇場（ベルリン）にて研修。近年はジャンルを横断したプロジェクトの企画・制作を行う。KYOTO EXPERIMENTには2011年より制作として参加、2020年より共同ディレクター。

塚原悠也

関西学院大学文学部美学専攻修士課程修了後、NP0法人ダンスボックスのボランティア、運営スタッフを経て、アーティストとして2006年パフォーマンス集団contact Gonzoの活動を開始。2020年、演劇作品『ブラータナー：憑依のポートレート』におけるセノグラフィと振付に対し「読売演劇大賞」スタッフ賞を受賞。同年より京都市立芸術大学彫刻科非常勤講師。

ジュリエット・ナップ

福岡生まれ。オックスフォード大学英語英文学卒業。2015-2017年Ryoji Ikeda Studio Kyotoでコミュニケーションマネージャー、音楽及びパフォーマンスのプロジェクトマネージャー。2017年よりKYOTO EXPERIMENTに広報として参加し、2020年より共同ディレクター。

東京芸術祭ファーム ラボは、さまざまな人が創造的な力を安心して発揮できるよう、「東京芸術祭ファーム ラボ ガイドライン」 (https://tokyo-festival.jp/tf_farm) に則って運営されます。全ての参加者はこのガイドラインのもと、活動に参加していただきます。

① ディスカッションコース

■ コース内容

- **レクチャー受講・ディスカッション参加（全4回）**
都内の会場にて、国内外のさまざまなフェスティバルのディレクターを務めるゲストによるレクチャーを受講。それを踏まえてディスカッションに参加（関連情報のリサーチなど事前準備をしていただく場合あり）。
 - ・ファシリテーター：多田淳之介、長島確
 - ・ゲスト：「実施概要」参照
- **まとめの会参加**
これまでのレクチャー、ディスカッションを踏まえたまとめを実施。
 - ・ファシリテーター：多田淳之介、長島確
- **最終レポート提出**
まとめの会終了後、最終レポートを提出。

■ 日程

期間：2022年10月31日(月)～11月5日(土)

10月31日(月) 17:00～20:00	第1回 ゲスト：小川希（Art Center Ongoing ディレクター）
* 11月1日(火) 18:00～21:00	第2回 ゲスト：マーティン・デネワル（フェスティバル・トランスアメリカ共同芸術監督）
* 11月3日(木・祝) 17:00～20:00	第3回 ゲスト：リバー・リン（アーティスト、ADAMキュレーター）
* 11月4日(金) 17:00～20:00	第4回 ゲスト：川崎陽子、塚原悠也、ジュリエット・ナップ（KYOTO EXPERIMENT共同ディレクター）
11月5日(土) 17:00～20:00	まとめの会
11月15日(火) 17:00	最終レポート提出〆切

* ゲストはリモートでレクチャーを実施、ディスカッションに参加

※ゲストによるレクチャーのアーカイブ動画は、2022年11月11日(金)～12月11日(日)の期間、視聴可能。

■ 会場

東京芸術劇場 内（詳細は参加者に後日連絡）

- ・〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1
- ・JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線 池袋駅西口より徒歩2分。駅地下通路2b出口と直結。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況によって、実施内容に変更が生じる場合があります（例：都内会場での実施を取り止め、オンラインでの実施に切り替える等）。

② レクチャーコース

■ コース内容

- **レクチャー視聴**
ゲスト（「実施概要」参照）によるレクチャーのアーカイブ動画を後日オンラインで視聴。
※アーカイブ動画にディスカッション部分は含まれない。

■ 日程

期間：2022年11月11日(金)～12月11日(日)

- 上記期間内に全4回のレクチャーのアーカイブ動画をオンラインで視聴。
（11月11日(金)までに、アーカイブ動画の視聴URLをメールにて連絡。）

■ 会場

オンライン（アーカイブ配信はYouTubeを使用予定）

募集概要

① ディスカッションコース 【選考あり／応募締切 2022年9月10日(土)17:00 (日本標準時)】

■ 応募資格 次の1～8のすべてにあてはまる方

1. フェスティバルや劇場のディレクションに関心がある
2. 「東京芸術祭ファーム2022 ディレクターズフォーラム イントロダクション(オンライン説明会)」を視聴した
※アーカイブは東京芸術祭YouTubeチャンネル (<https://www.youtube.com/channel/UC2pS2zZvx2R1bVjwgrlv84w>) で視聴可
3. 課題に真摯に取り組み、他の参加者等を尊重しつつ、ディスカッションに積極的に参加する意思がある
4. 原則として18歳以上40歳以下 (高校生不可)
5. 全ての活動に日本語を用いて取り組むことができる
6. 東京芸術祭が行う、自身の参加プログラムの広報およびPRに協力することができる
7. 原則、実施日程(p. 3参照)に掲載のスケジュールに全日参加が可能
※活動ができない日程がある場合は、応募時に期間を明記してください。
8. 都内の会場 (p. 3参照) に通うことができる

■ 参加費 無料

■ 募集人数 最大20名

■ 応募締切 2022年9月10日(土) 17:00 (日本標準時)

■ 合否連絡 2022年9月26日(月)

- 書類審査を経て、メールにて合否を通知します。
- ディスカッションコースの選考にて不合格となった場合は、自動的に「レクチャーコース」に登録されます。

■ 応募方法

以下の応募フォームより必要事項を入力の上、送信してください。

ディスカッションコース 応募フォーム <https://forms.office.com/r/PPhxdjWJdC>

<必要事項>

1. 氏名もしくは活動名
2. 自分に対して使用してほしい代名詞 等 (he、she、they、名前 等 / 自由記述)
3. 活動拠点 (都市名 / 複数ある方は全て)
4. 生年月日
5. メールアドレス
6. 連絡先住所
7. 日中連絡のつく電話番号
8. 職業 (所属など)
9. 略歴 (400字以内)
10. 応募動機 (400字程度)
11. 課題作文：あなたが考える舞台芸術フェスティバルの役割 (400字程度)
12. 実施日程 (p. 3参照) の内、参加ができない日程や活動ができない期間 (あれば)
13. 応募にあたっての連絡事項など

② レクチャーコース 【選考なし／応募締切 2022年10月25日(火)17:00（日本標準時）】

■ 応募資格 次の1～5のすべてにあてはまる方

1. フェスティバルや劇場のディレクションに関心がある
2. 原則として18歳以上40歳以下（高校生不可）
3. 全ての活動に日本語を用いて取り組むことができる
4. 東京芸術祭が行う、自身の参加プログラムの広報およびPRに協力することができる
5. オンラインでの活動に必要な環境を整えられる
 - セキュリティに問題がないインターネット接続環境
 - 動画閲覧、大容量ファイルのダウンロード等に十分に対応できるインターネット接続環境

■ 参加費 無料

■ 応募締切 2022年10月25日(火)17:00（日本標準時）

- レクチャーコースは、選考はありません。応募者全員に、11月11日(金)までに、アーカイブ動画の視聴URLをメールにて連絡します。

■ 応募方法

以下の登録フォームより必要事項を入力の上、送信してください。

レクチャーコース 応募フォーム <https://forms.office.com/r/Y1k6qBN3Fw>

<必要事項>

1. 氏名もしくは活動名
2. 自分に対して使用してほしい代名詞 等（he、she、they、名前 等 / 自由記述）
3. 活動拠点（都市名 / 複数ある方は全て）
4. 生年月日
5. メールアドレス
6. 日中連絡のつく電話番号
7. 職業（所属など）
8. 専門分野、関心など
9. 応募の動機（200字程度）
10. 連絡事項 など（あれば）

■ 留意事項

- 選考結果及び今後のアーカイブ動画共有などに関する連絡は、メールにてお知らせいたします。必ず、Farm-Labオフィスからのメール（farm@tokyo-festival.jp）が受け取れるようパソコンや携帯電話の設定をご確認ください。
- 各プログラムの妨げになる行為などが認められた場合は、参加を取り消しとさせていただく場合があります。
- お預かりした個人情報は厳重に保管し、本企画に関する諸連絡以外に使用することはありません。

[お問合わせ] Farm-Lab オフィス MAIL：farm@tokyo-festival.jp TEL：03-4213-4293（平日10時～19時）

※記載の情報は2022(令和4)年8月15日現在のもので、内容等は変更になる場合がございます。

東京芸術祭ファーム 2022 テーマ 「都市をほぐす／Unlearning Cities」

「都市≠集い」

2022 年の東京芸術祭ファームは「都市をほぐす／Unlearning Cities」をテーマに開催します。昨年のテーマ「都市の価値／Why Cities?」での“問いかけ”から、今年は〈都市＝集い〉の価値観を捉え直す積極的な“行為”でありたいという思いを込めました。近年東京芸術祭ファームが取り組んできたオンラインを活用した国際的なプログラムの成果発表を見ても、オンラインの目的や役割が“情報や時間の共有”から“行為や体験の創出”へ変わっているのを実感します。集まらなくてもできることは今後ますます増え、これまでの価値観を手放すならば、もはや都市に集う必要は無い〈都市≠集い〉が前提なのかもしれません。それでも都市が果たせる役割は多様性の担保ではないでしょうか。受け入れる量ではなく幅によって誰もが存在し集まることができる機能には、これからの都市の可能性を感じています。

今年のプログラムでは、国際クリエイションのチームを2チームに増やしフィールドやバックグラウンドの異なるメンバーでのさまざまな協働の可能性にトライします。

2ヶ月にわたるオンラインアートキャンプはアジアから参加者を公募し、日本国内からは国際クリエイション現場のアシスタント・インターンや一部プログラムへのビジター参加も可能です。学生対象の教育普及プログラムにもご期待ください。そしてガイドラインに基づき、ハラスメントの防止やセーフスペース作り、舞台芸術の環境作りに取り組めます。

先の見えないまま進む 2020 年代、ならば見たい未来を自分たちで作る、東京芸術祭ファームはそのための場所です。ぜひ、お集まりください。

2022 年 6 月

東京芸術祭ファームディレクター 多田淳之介



新しい共存と協働の場へ向けて

常識（共通感覚、common sense）が大きく変わりつつあります。アートの現場に限っても、これまで当たり前だと思われていた感覚や考えが通用しなくなってきました。かつて有効だったやり方が、機能しないばかりか、害を与え始めています。それらはおそらくこれまでも無害だったわけではないのですが、なんとなく見過ごされていたのが、いまでは明らかに人を傷つけたり、何かを破壊するだけのものになっています。

こうした感覚の変化はパンデミック以前から始まっていました。それがこの 2 年半に及ぶ行動様式と価値観の根本的な「洗い直し」でより明確になったのだと思います。

この 2 年半の間にわたしたちが経験してきたのは、新しいことの学習というよりも、知らぬ間にすでに身につけてしまっていたものの「脱学習」、アンインストールだったのだといえます。これまで無自覚に、無批判に、享受し行使してきたものに、いったいどんな価値があったのか／なかったのか、いったん体から抜き、解きほぐし、検証し直す時間でした。そのうえであらためて、フェアで、みなさんの幸福につながるような集団創作や協働の形を、自分たちの手でどのようにして作るのか。他者との共存と交流の象徴としての都市を、どうやって再発見・再構築するのか（する必要があるのか?）。今年のテーマ「都市をほぐす／Unlearning Cities」に、わたしはそんな期待を込めています。

東京芸術祭ファームは、社会全体の大きな変わり目にあって、従来のやり方への違和感と変化への期待をもつ人が集まって、土を耕し、種を蒔き、苗を育てるための場です。われこそはと思う人はぜひ参加してください。

2022 年 6 月

東京芸術祭ファーム共同ディレクター 長島確



コミュニケーションデザインについて

東京芸術祭ファームでは、国や文化等の異なるメンバーが集まる国際協働の現場において、その出自や立場に関わらず参加者全員が安心して創作に挑める環境を整えるため、企画の段階からコミュニケーションデザインチームがプログラム設計に関わっています。

2022 年度コミュニケーションデザインチーム

Art Translators Collective

チーフ：田村かのこ

メンバー：山田カイル、水野響、春川ゆうき、森本優芽、植田悠

<取り組みの一部>

■東京芸術祭ファーム ラボ ガイドラインの導入、整備

差別やハラスメントなどの人権侵害の発生を防止するためのガイドラインを制定し、東京芸術祭ファーム ラボに関わるすべての人にその遵守をお願いしています。また、ガイドラインの内容は毎年見直し、より良いガイドラインの制定に努めています。

■希望するジェンダー代名詞の確認、ジェンダーアイデンティティの尊重

ミスジェンダリング*を防ぐため、昨年から応募フォームには自分が使って欲しい代名詞（代名詞を希望しない場合には名前等）を記述式で書き込めるようにしています。創作期間中も、それぞれの代名詞を尊重するために、知識と意識の共有を徹底していきます。

*本人が自認するジェンダーと異なる取り扱いをする差別行為（例：見た目性別を憶測して判断した人称代名詞や敬称を相手に用いる）

■言語やコミュニケーションの多様性を尊重したアート・トランスレーション

アジアの国々からの参加者が集まる東京芸術祭ファーム内でのコミュニケーションには、共通語として「英語」が用いられますが、土地や文化により英語のあり方も多様です。コミュニケーションデザインチームは、それぞれの話す英語を尊重し、英語が流暢な人もそうでない人も対等に話せるような環境を設計し、言語の変換にとどまらない通訳・翻訳を行います。また、文化の違い等によりコミュニケーションの取り方もさまざまです。一つの文化マナー（たとえば日本の常識）に人々を従わせるのではなく、それぞれの持ち寄る観点からこの場に必要なコミュニケーションのあり方を探っていきます。

■学習機会の提供

以上の取り組み等について、参加者が事前に必要な知識をつけるためのガイダンスやレクチャー、ワークショップを実施します。

東京芸術祭ファームとは

東京芸術祭ファームは、東京芸術祭の人材育成と教育普及の枠組みです。アジアの若いアーティストの交流と成長のためのプラットフォームであった APAF（Asian Performing Arts Farm）にフェスティバル/トーキョー（F/T）の研究開発・教育普及事業が合流し 2021 年にスタートしました。

今年の東京芸術祭ファームは、研究開発を通じた人材育成のための「ラボ」と、教育普及のための「スクール」の2つのカテゴリーでさまざまなプログラムを実施します。「ラボ」では、他者と協働しながら地域や分野を超えた「トランスフィールド」を開拓し、今後ますます流動的になるさまざまなボーダーを自由に行き来して活躍する人材の育成を目指します。「スクール」では、大学生を中心とした若い観客を対象に、レクチャーの受講やトークイベントへの参加、レポート執筆など、舞台作品を通して、考え、交流する機会を提供します。

東京芸術祭ファーム 2022 ページはこちら https://tokyo-festival.jp/tf_farm